



第241号

発行 埼玉県神社庁
 さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
 電話 048(643)3542
 編集 庁報室
 印刷 株式会社コミュニケーションズ

目次

ユイマールの絆を強め……………	2
支部長就任の挨拶……………	4
教化研修会のお知らせ……………	6
令和四年度神社庁々務方針……………	7
教化委員会活動方針……………	8
神道政治連盟埼玉県本部長再任挨拶……………	9
埼玉県神社氏子総代連合会会長再任挨拶……………	9
本宗奉賛委員会委員長就任挨拶……………	10
神話カレンダー御協賛のお願い……………	10
埼玉県神社氏子総代連合会設立七十周年記念 第四十三回埼玉県神社関係者大会報告……………	11
神社庁役員等の改選……………	12
庁務日誌抄……………	14
『埼玉県神社庁七十五年誌』訂正……………	14
第四回コロナ禍における神社実態調査の集計結果……………	2
中山高嶺前庁長に長老の敬称が贈られる……………	1



埼玉県神社氏子総代連合会設立七十周年記念 第四十三回埼玉県神社関係者大会 令和4年6月22日

ユイマールの絆を強め

沖縄県神社庁長

波上宮宮司

渡慶次

馨

沖縄は今年、祖国復帰五十年の佳節を迎えました。畏くも、今年の天長節の日に天皇陛下より「先の大戦で、悲惨な地上戦の舞台となり、その後、約二十七年間も日本国の施政下から外れた沖縄は、人々の強い願いの下、五十年前日本への復帰を果たしました。この間、今日に至るまで、沖縄の人々は本場に多くの苦難を乗り越えてきたものと思いますし、このことを決して忘れてはならないと思います。本土復帰から五十年の節目となる今年、私自身も、今まで沖縄がたどってきた道のりを今一度見つめなおし、沖縄の地と沖縄の皆さんに心を寄せていきたいと思いません。」とお言葉を賜りました。昭和天皇、上皇陛下、今上陛下と受け継がれる大御心に感激一入でございます。

七十七年前、沖縄県は先の大東亜戦争の末期、祖国防衛のため御国の御盾として、県民をも巻き込んだ友軍と連合国軍との熾烈極まる戦いで焦土と化しました。沖縄を守備する十一万の友軍、攻撃する十八万の米軍の兵力と近代化学兵器を総動員しての攻防戦は、友軍の戦死者約九万四千人とアメリカ側の戦死者約一万二千人、加えて約九万人にのぼる沖縄県民の尊い命を奪いました。

三か月に亘り、沖縄県民は軍と共に必死に戦い、米軍は沖縄戦での甚大な被害から本土上陸作戦を諦め、日本の国体が保たれたとも云われています。

沖縄戦は日本国内初の地上戦で、とりわけ、健気な中学生や女生生を中心とした学徒隊が任務につき、軍官民が一体となって防衛線を遂行した点に大きな特徴があり、その様子は、昭和二十年六月六日海軍次官へ送られた、大田實中将の有名な決別電文「沖縄県民斯く戦へり 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」でも伝えられました。

戦後、サンフランシスコ講和条約で、「琉球諸島は合衆国を施政権者とした国際連合信託統治」としました。その情報に接した沖縄県民は、未だ永劫祖国に戻れなくなる危機を感じ、祖国復帰の署名運動や嘆願を始めました。しかし結局、昭和二十六年、同条約で米国の施政権下に置かれ続けることになり、県民には大きなショックでしたが、諦めることなく米軍圧力下での日の丸掲揚運動などを行いました。講和条約前、日本政府も、沖縄の主権を失わないよう様々な外交交渉を戦っていました。

昭和二十九年二月十九日に沖縄教職員会会長の屋良朝苗(初代沖縄県知事)は、国会の衆議院文部委員会以下のように演説しています。「一連の共通の文化と歴史を持ち、日本人としての民族的矜持を有する沖縄の住民が、どうしていつまでも異民族の統治下に満足しておられまじうか」と、子供たちに日本人としての教育を施したい、という強い思いを訴えました。更に特筆すべきは、昭和天皇が連合国に提案されていた「施政権は米国に租借するが主権は日本に残す」という「潜在主権方式」です。講和条約締結の際にこの合意があったので、それが県民の復帰運動の根柢となり、講和条約から二十年後の昭和四十七年五月十五日に、米軍統治が終わり、祖国復帰が叶いました。

沖縄復帰記念式典で昭和天皇からは「本日、多年の願望であった沖縄の復帰が実現したことは、まことに喜びにたえません。(中略)この機会に、さきの戦争中および戦後を通じ、沖縄県民の受けた大きな犠牲をいいたみ、長い間の労苦を心からねぎらうとともに、今後全国民がさらに協力して、平和で豊かな沖縄県の建設と発展のために力を尽くすよう切に希望します」と大御心を賜りました。

沖縄の復帰運動は昭和三十年代中頃から活性化し、特に中国は在沖米軍を撤退させる為沖縄返還運動を支持し、日本の共産党や新左翼も当初は熱心に祖国復帰運動を行いました。しかし、祖国復帰が米軍基地を残す形で行われたことで中国やその同調勢力の思惑は外れ、日の丸運動も中止になりました。そして、復帰後に行われた安保闘争や基地抜き沖縄返還運動の背後には中国共産党があり、現在の反米基地運動へとつながっています。

戦後、波上宮復興に努め、昭和四十七年の祖国復帰の時には、沖縄県神社庁の初代庁長となられました上原恵理宮司は、琉歌で「朝夕拝みたるなんみん（波上）のお宮 見る方やねらん鳥居びけい」と歌われ、戦禍で鳥居だけが残る境内に茫然自失したと言われておりました。沖縄県の文化・財産の全てが悉く灰燼に帰しました。そして、祖国復帰が叶います昭和四十七年までの二十七年間に渡る米軍統治下のもと宗教法人法も施行されず、神社の復興は困難を極めておりました。しかし、昭和二十八年にハワイ在住の沖縄県出身で組織する「ウルマ一心婦人会」など、心ある人々のふるさと沖縄の復興を願う熱い志の浄財をもって、波上宮と普天満宮の御本殿が再建され、戦後復興の途につきました。

そして、昭和四十七年五月十五日、沖縄県の祖国復帰が叶い、同日沖縄県神社庁が設立されました。設立には神社本庁の総力を挙げての万全の対策指導がなされ、合わせて全国神社界の温かい支援をもちまして管内十社を包括する神社庁の今日がある次第でございます。初代上原恵理庁長、吉田玄蕃庁長、片岡友次庁長、そして平成二年から二十七年の長きに渡り県神社界を指導牽引されました末安大孝庁長と、新垣義夫副庁長以下管内神社の神職役職員のご尽力により、琉球八社をはじめとする神社の復興と祭祀の厳修が進められてまいりました。しかしながら、戦後境内地を失った三社の復興という重責も残されており、五十周年を期に管内十社神職数十名の微力な庁ではありませんが、相互に補助し合い譲り合うユイマールの心根で遅くとも着実にその歩みを進める所存でございます。

殊に、終戦の翌年より戦禍に傷ついた全国民を激励しようと始められました全国御巡幸も唯一沖縄県だけは叶いませんでした。「思わざる病となりぬ沖繩を たづねて果さむつとめありしを」と、昭和天皇の沖繩を思う大御心を受け継がれ、上皇陛下には皇太子時代の昭和五十年、沖繩国際海洋博覧会に際しての初の行啓以来、実に五回の行啓をお重ねになられました。さらに御即位後には天皇陛下として、平成五年の第四十四回全国植樹祭、終戦五十年慰霊の旅、国立劇場おきなわ開場、復帰四十年の年の第三十二回全国豊かな海づくり大会、平成二十六年で学

童疎開船対馬丸事件から七十年にあたる慰霊の旅、平成三十年の離島御視察と、誠に感激この上ない十一回の行幸啓をお重ねになられました。そして、そのすべてが真つ先に戦歿者の慰霊のお祈りからお始めになられております。万世一系連綿と「国やすかれ、民やすかれ」とお祈り下さいます天皇陛下の大御心に、心ある県民は感謝の誠を捧げてまいりました。

戦後の沖縄の米国統治からの祖国復帰が平和裡になされたことは、日本や世界の歴史でも画期的意味があります。半世紀を経た現在、奇しくも沖縄や日本、世界にとっても大きな分岐点にあり、東欧に於いては、ロシアのウクライナ侵略、また極東に於いては、中共による台湾や尖閣諸島への脅威があります。隣国の共産中国が軍事を急拡大して国際法違反の南シナ海を自国領海化し、香港市民の弾圧やチベットやモンゴル更に新疆ウイグルでのジェノサイド、台湾、尖閣諸島を虎視眈々と狙っており、沖縄と日本の安全保障も危機的状態です。

近い将来の台湾有事の際には自動的に日米が介入し、自衛隊と米軍が即対処するものと確信します。又、中国が台湾進攻と同時に沖縄の米軍基地を攻撃すれば自動的に日米を敵に回しますから、それは避ける筈です。つまり駐沖・駐日米軍は現在、中国の台湾、尖閣諸島、沖縄侵略を防ぐ抑止力として十分に機能しています。一方では日米安保反対の左翼勢力やマスコミは米軍基地があるから、沖縄が戦争に巻き込まれると云う偏向報道に躍起になっておりますが、米軍が撤退すれば、台湾のみならず、沖縄も必ず戦地になります。これはフィリピンから米軍撤退後、中国が国際法を破り、南シナ海を領海化したことから明らかです。ロシアの侵略に徹底抗戦し、国土を防衛しているウクライナ国民魂が世界中から賞賛を集めております。

この秋にあたり、私共、県民は祖国復帰五十年をまごころからお祝い申し上げつつ、深く世界の平和を希求し、正しく世界の動向を把握すると共に、時局の推移を見誤ることなく、県の平穏な発展と繁栄を祈り、ユイマールの絆を強めつつ、実践行動しなくてはなりません。

※ユイマールとは沖縄方言で相互補助の意

神社庁各支部支部長就任挨拶

北足立支部長挨拶

吉田 正臣



この度、北足立支部長を拝命致しました。浅学菲才の私には身に余る光栄であり、また重責を痛感しております。

全世界が疫病により大打撃を受けて疲弊しています。更には、ロシアのウクライナ侵攻の影響で経済は大混乱を来しております。

神社仏閣は、疫病の蔓延防止の為に宗教活動を縮小又は自粛しました。本来、疫病や災害の鎮静を祈るのが宗教の目的ではないでしょうか。本年、神宮大麻全国頒布一五〇年の佳節を迎えました。この機に、総代の皆様と一緒に神宮大麻頒布始祭を奉仕し、また、参宮の機会を増やし、氏子総代の皆様に神宮及び神宮大麻を身近に感じて頂く事が、神宮大麻の意義を広める事に繋がると思っています。

神職と総代が一丸となり神社の護持運営に務め、氏子の皆様の平穏と地域の発展に寄与したいと思っております。

微力ではありますが、斯界の為に全力を尽くす所存です。皆様方のご指導とご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

人間東支部長就任挨拶

宮本 孝雄



初めての役員会出席のために氷川神社の参道を独り歩いていくと、目の前に広がる杜の新緑に目を奪われました。

私は今年度より人間東支部長に任じられました。前人間支部の時代から四期十二年の間、協議員会の末席でお世話になってまいりましたが、この間、神社庁には多くの重要な変革がありました。

一方で、普遍で変わらないものがあります。それは祈りの場としての神社であり、安らぎの空間としての杜だと思えます。いまだ収束の見えないコロナ禍にあって、祭礼を始めとする人々の集まりは制限され、職場はテレワーク化が進み、社会全般に閉塞感が漂い、孤立する人が増えています。

こうした時代であるからこそ、これまで以上に神社界が、個々の神社が、そして神職が人々の精神生活に果たすべき役割があるのではないのでしょうか。こうした点を踏まえ、神社界のために微力ながら貢献できるように努めて参ります。

人間西支部長に就任して

枝窪 邦茂



この度、人間西支部会員よりご推挙を頂き、支部長に就任致しました。浅学菲才ですが、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

また、就任早々の初仕事として、三年ぶりの神社関係者大会を関係各位のご協力により無事開催できましたこと、誠にありがとうございました。

さて、人間支部が支部再編で、東と西に別れ六年過ぎました。平成から令和への御代替わり、そして新型コロナウイルス感染の流行また、ロシア軍のウクライナ侵略と、変化の大きい時代です。神社を取り巻く環境も大きく変わっております。

その中であって、神社を中心として周りの人と仲良く過ごせるようにしていきたいと思っております。地域の氏子さんに寄り添える様な神職でありたいと思っております。

家庭、地域、が誇りを持てる神社の活動を心がけたいと思っております。

比企支部長就任挨拶

岡部 憲夫



令和四年度より三年間比企支部長を務めることになりました。本務は比企郡川島町鎮座日枝神社宮司を拝命しております。

比企支部は、比企郡市二〇六社神職数三十七名の県内で最も神職数が少ない支部です。田園地帯から山間部まで変化に富んだ自然環境に恵まれた地域ですが、過疎化と少子高齢化の影響で、氏子数の減少が大きな問題にもなってきました。コロナ禍により祭典も神事のみが続き、以前の地域住民との繋がりも少なくなりました。

この様な状況から、ウイズコロナの中で祭典を如何に復活させ、地域住民の参加につなげていくかが今の課題だと思っております。

また、令和五年には、県の関係者大会の当番支部となります。管内神職の協力のもと準備をすすめていく所存です。兼業としての奉仕期間が長く、定年後専業となったため、右も左もわからない状況です。ご指導ご協力をよろしくお願い致します。

秩父支部長再留任の弁

園田 稔



実に五期十五年という異例の庁長在任を果たされるなかで、本県神社庁の宗教法人化と庁舎建設

を始め山積する懸案の諸課題を見事に解決された中山高嶺前庁長のご功績を称えつつ、その更なる実績ともいふべき清新な後継人事、高麗文康新庁長の就任には、その若い人材を大いに奮起せしめる新体制に期待したいところです。

さて秩父支部の場合、荒川水系の源流地帯という典型的な中山間地域に当たって、多くの集落が軒並み住民高齢化と少子化とに存続の危機に晒されており、そのため都合九十四社の氏神奉斎も万全とは申せませんが、幸いに三峯、秩父、寶登山の別表三社による拠点神社機能の働きと支部長直属の神社対策委員会の活動などで、各社の法人人事の流動化に対処しているところです。

大里児玉支部長就任挨拶

金 鑽 俊 樹



国難と称されるコロナ禍期間も長くなり、感染者数も高止まりの昨今、大里児玉支部長として重責を担わせていただくこ

ととなりました。昨夏の東京オリンピックも過去のものとなり、経済性や合理性のもとに流されていくなかで、コミュニケーションの機会も少ない状況です。

世の中が激変したこの二年間に神道祭事も手探りの状態となり、平均年齢の若い本県でも人口減少と高齢化の流れは大きくなっています。一度簡略化した神事が本来の形に戻ることなのか、一抹の不安を持っています。

一例をあげますと、兼務社では獅子舞の見習いとして「カンカチ」と称する所役があります。小学校低学年児童が先頭に立ち、小鉄棒にて道を清めるものですが、その継承がコロナ禍により難しいこととなっています。

多難な時代ですが、デジタル化の推進や情報公開と共に「風通しの良い・活力のある大里児玉支部」をめざし、速度感をもって取組を進めてまいります。

さきたま支部長就任挨拶

中村 邦彦



この度、さきたま支部長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

当支部は、旧北埼玉支部と旧北足立支部の一部・旧南埼玉支部の一部・旧北葛飾支部の一部の四地区が再編された支部であります。東秀幸前支部長任期中は、旧四支部を纏めながら、事務局を兼任され、しかもコロナの災禍にあつて予定通りの事業が出来ない、正にダブルパンチの御苦労の連続でした。支部への貢献は多大で、感謝の念に堪えません。本当に御苦労様でした。

私も新役員の下、前支部長に近づけるよう勤め上げて行きたいと思つて居ります。今年は、当支部では、第三期「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」の三年目に当たります。先ずは、この計画の実施に尽力して行きたいと思つていきます。

埼玉東支部長挨拶

高梨 佳樹



この度、埼玉東支部の支部長を務めさせていただく事となりました。改めて職の重さを痛感

し、円滑な支部運営が出来るよう、微力ではございますが努めて参りたいと存じます。埼玉東支部は、支部の再編より恩田栄治前支部長のもと、基礎固めがなされて、諸事業の円滑化が図られ、お宮と親子の集い、研修視察、祭式を中心とした研修会等、支部運営が順調に進められて参りました。

コロナ禍の中で諸事業も中止せざるを得ない状況となりましたが、今期も引き続き支部内神職間の交流親睦を中心として、時局にあわせた諸問題等、神職同志の問題意識を共有し、支部の円滑運営と管内の神社の発展に努めてまいります。皆様のご指導とご協力を心よりお願いを申し上げます。

令和四年度教化研修会開催のお知らせ

期 日 九月六日(火・赤口)

開催方法 埼玉県神社庁講堂における研修及び遠隔研修を併用した研修

研修主題 『神社護持を考える』

研修副題 『教化活動と奉賛活動』

開催趣旨

古来より神社は、地域社会の氏子組織により支えられ受け継がれてきた。しかしながら核家族化が進み、地域社会が衰退すると神社を支える基盤が変容した。加えて、氏子の高齢化や過疎化とも相俟つて神社に対する無関心が進んでいる。この様な社会に神社はどの様に寄り添っていく事が出来るのか考える必要がある。

神社の護持運営には氏子崇敬者を始めとする人々の協力が不可欠であり、これらの人々に神社の社殿や保有する文化財をどのようにして守っていくのか教化する必要がある。その為には先ず神社が受け継いでいる社殿や文化財の管理方法を学び、その上で社殿や文化財を次世代に継承する教化活動を考える研修としたい。

第一講、山下祐樹熊谷市立江南文化財センター主査『文化財の護持について(仮)』

第二講、平澤牧人飯香岡八幡宮宮司・千葉県神社庁理事『教化活動とクラウドファンディング(仮)』

申し込み 支部事務局まで、八月末日締切

令和四年度神社庁々務方針

参事 武田 淳

去る三月十六日、神殿鎮座記念祭を斎行し、定例の埼玉県神社庁協議員会が開催され、令和四年度の予算が承認可決されるとともに、任期満了に伴う役員改選が行われ、高麗文康庁長が選任、小林一朗・東秀幸の二名が副庁長として指名され、承認された。新役員（理事・監事）もそれぞれに選任され、新年度がスタートした。ここに前の協議員会の報告を兼ねて、今年度の庁務方針について概要を報告する。

新年度予算について、歳入ではコロナ対策の一環として、神職負担金・神職負担金・特別神社負担金を前年度と同様に二割減額した。本庁第二交付金は神宮大麻減体により、前年度より四百九万二千元減額している。予算総額としては、一億八千八百九十六万五千円となった。歳出では、前年度の予算執行状況を勘案し全般的に予算編成を行った。本庁納付金は、神社本庁への負担金額がコロナ対策の一環で何割減額になるか決まっていないため、通常の額を計上した（五月の神社本庁評議員会で決定）。何れにせよ今年度も厳しい予算状況に変わりなく、予算執行に当たっては今

後も諸経費の削減に努めて参る所存である。

次に、斯界の本宗と仰ぐ伊勢の神宮の御事について、本年は神宮大麻全国頒布百五十年の節目を迎え、本宗奉賛の柱である神宮大麻の増頒布運動や参宮促進活動の展開について、神社庁役員会を中心に本宗奉賛委員会や教化委員会と連携して引き続き施策を講じていきたい。神宮大麻の頒布数はコロナ禍の影響もあり、大幅な減体傾向にある。これに歯止めをかけるべく、本宗奉賛委員会を改編し、新たに各支部より常任委員を選出戴き、馬場裕彦委員長を中心に前期教化委員長として行った「Oneポイントアップ運動」を発展させる形で検討していきたい。本運動は、「神職一人一体、各神社1%アップ」をスローガンに掲げ、増頒布する施策である。

また、「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」では、入間東支部とさきたま支部が指定支部として活動している。今後は、都市部における頒布活動の見本となる様な施策を期待し、県全体の取り組みの参考としたい。次に、教化活動には、東角井真臣委員長を中心とした教化委員会や、岡本一雄主任講師

をはじめとした研修所講師会などの全面的な協力を得て、各種研修会・神話カレンダー・教化資材などの作成等々さらなる内容の充実に向けて参りたい。コロナ禍で活動も制限される中ではあるが、コロナ対策としての「変わらない祈りのために」キャンペーンの継続や、SNSを活用した神社紹介企画などを引き続き実施していく。テレビ埼玉協力による動画制作（有料）もあり、この機会に県内各神社の特色を発信していきたい。

その他、次代を担う後継神職の育成の充実を図り、現任神職に対しては社会の師表に足り得る人材養成の為の各種研修や、ミニ講座などもオンライン併用で実施していく。

最後に、神社庁からのお知らせについて、ペーパーレス化への第一歩として神社庁ホームページに「神職専用ページ」を昨年度開設した。支部へ通知した文書や研修の案内などを掲示している。今後は各支部とも意見交換を行いながら、より使い易いシステムの導入を検討していきたい。

神社界を取り巻く環境は、コロナ禍の影響も受けより厳しい状況にあります。神社庁職員一丸となって諸問題に取り組んで参ります。今年度も、各位の尚一層のご理解とご協力をお願い致します。

教化委員会活動方針

東角井真臣



この度、高麗文康庁長に御推挙賜り、教化委員長を拝命致しました。浅学非才ではございますが、ご期待に応えるべく精一杯勤めて参ります。また、経験豊かな神島歩氏、新渡戸常英氏には有難くも副委員長にご就任を頂き、各支部より多くの素晴らしい委員を選出頂きまして、皆様方のご指導ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

今期、教化委員会の主題を「新しい時代の神道教化」変容する価値観への対応とその活用」と致しました。

東日本大震災以降、神宮や出雲大社の遷宮、パワースポット・御朱印ブーム、そして令和の御代替わりにより、神社や神道への関心が高まり、様々な広報媒体が神社を扱っていました。さらにはインバウンドの増加もあり、いわゆる大社や観光地の神社の参拝者数は堅調でした。しかし、それにより人々の信仰心が深まったわけではありませんし、都市部や観光地にある神社とそれ以外の神社の経営格差の問題は解決していません。また、社会全体もどこか閉塞感に包まれています。一時的なコロナ禍やウクライナ情勢の影響もありますが、それ以上に、人口減少による過疎化や少子高齢化、地域社会の崩壊、環境破壊や経済の停滞など、明るい未来が見えてきません。そして、物質文明による崇敬心の希薄化、神道と関わりが深い第一次産業の衰退、情報化社会や国際化、キャッシュレス、ジェンダー平等や価値観の多様化など、社会の大きな変化に斯界が対応を迫られております。神道教化において、我々は考えを転換する時期を迎えております。

勿論、神道は人々の信仰の上にあるので、信仰の核となる部分や、祭祀の形は、我々が恣意独断で解釈をして安易に変えるものではありません。

ん。しかし、その歴史と共に守られ続けてきた信仰や祭りの心を、広く世に、次世代に伝える事、その「方法」についてはその限りではなく、常に変化が求められております。神宮大麻の頒布方法に変遷の歴史があるように、神道教化の方法においても、時代の価値観に対応する形でアップデートを繰り返していく事が非常に大切です。

ただ、教義教典がない神道において、家庭祭祀の意義や祖先崇拜・氏神信仰の心を伝える事は決して簡単ではなく、また人々の生活様式も変化し、社会の情報化や国際化によって、価値観の多様性も求められております。その中で神職が何を説くべきなのか。それにはやはり我々が言挙げをして論理的に説明をする、その神職の力量も今、問われております。議論を重ね、時代に寄り添った教化の方法を考え、実りある事業につなげる事。そして研修・研鑽を通じて見識を深め、神社の永続的な維持運営につなげる事。未来を見据えた新しい教化活動の展開と研修を推進する事を目的とし、以下の四つのテーマを考え、実践していきます。

- ① 氏子崇敬者を始め、次世代を対象とした教化活動を展開し、一対一の信仰の受け渡しをする事。
- ② 神社が出来る持続可能な開発目標『SDGs』を考え、神道精神の対外発信に応用する事。
- ③ 地域コミュニティーの再生を図り、地域の氏神様に対する信仰心や神道精神を培う事。
- ④ 神道や神社の魅力を検証し、それを多角的に発信する事。

また、教化委員会の組織は、事業部、研修部、教化広報部の三部に分かれ、事業部(新渡戸副委員長)は二班編成(嶋田土支彦班長・小林威朗班長)で、テーマに基づき新しい教化事業を検討し、実行していきます。研修部(神島副委員長)も同じく二班編成(中山昌人班長・宮本修班長)で、教化研修会、実務研修会、ミニ講座等を時代に合った、神職の実情に即した形で踏襲し、実施していきます。そして教化広報部(教化委員長)は一班(高橋陽一班長)で、今まで行ってきた神話カレンダー発刊や、SNSを用いた神社の魅力発信を継続しつつ、外部に対する新たな広報活動を検討推進する事を目標とします。

神道政治連盟埼玉県本部長再任挨拶

高麗 文康



前期に引き続き神道政治連盟埼玉県本部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今期は期首に参議院議員選挙が催されます。

本誌がお手元に届くころには既に結果がでていること存じますが、神道政治連盟推薦の全国区山谷えり子氏、埼玉選挙区関口昌一氏が対象の選挙でした。お二方とも国会において実績を積み上げ、必要な立場で活躍をされております。無事再選の暁には、私共と志を同じくし、更なるご活躍をいただきますと念じております。

「皇室の尊厳護持」は常に本連盟の重い課題です。その中でも皇統の護持は最も重いものと言えるでしょう。通称「安定的な皇位継承に関する有識者会議」は令和三年十二月に答申を終えました。今後は国会における議論を注視することになりますが、静謐な中で正しい結論が下されるよう政党内での議論も注視してまいりたいと存じます。

「憲法改正」には、世論の期待が高まってきたと感じます。関係各位のためまぬ努力の成果でもあります。今日の不穏な世界情勢が対岸の火事ではないことを、国民が感じ始めているのだと思います。神職の立場で人心の不安を煽ることなどしたくありませんが、現実的な課題には対応する必要があります。更に長い歴史に育まれた国柄を反映した憲法の改正も見据え、活動が続けて参りたいと存じます。

先期はコロナ禍により、二年目以降の活動が思うように捗りませんでした。そうした中であっても、時局研修会など最低限の事業が実施できましたのは、会員の皆様のご理解とご協力のお陰です。徐々にコロナ禍を克服しつつある現在は、通常の活動に戻してゆくことを主眼に置きつつ、丁寧な運営に努めて参りたいと存じます。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

埼玉県神社氏子総代連合会会長再任挨拶

大野 光政



この度、県神社氏子総代連合会会長に再任され、身の引き締まる思いです。本年は県神社氏子総代連合会設立七十周年にあたり、記念の神社関係者大会も三年ぶりに無事開催できました。今期は、大野隆司・津久井幹雄両副会長と共に、その任を務めさせて頂きますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

更に、高麗文康庁長、小林一朗・東秀幸両副庁長の御指導を得ながら活動して参りたいと存じます。

本年は本宗と仰ぐ神宮の、お伊勢さんのお神札「神宮大麻」が、明治五年より全国のお家庭にお頒ちされるようになってから百五十年に当たります。神宮大麻の頒布については、御関係皆様の御努力にも関わらず、依然、厳しい状況にあります。その対策として、本県神社庁におきましても、全国頒布百五十年を節目として、改めて神宮大麻頒布活動の増進を図り、積極的に活動されるとお聞きしておりますので、県神社氏子総代連合会と致しましても神宮大麻奉斎の意義啓発に努めながら、この運動に協力を惜しまず取り組む所存でございます。

また、新型コロナウイルスの影響により、三年に及ぶ各社の伝統的な祭礼行事の縮小・中止が続いております。今後、再開の方策を関係各位と共に考え、感染対策をとりながら、地域共同体の心の拠り所である神社を中心に祭祀の振興を図り、地域社会の発展に寄与したいと思っております。

この他、皇室敬慕の念を喚起し、尊厳護持のための啓発活動・祭祀の振興と鎮守の森の保護育成・神道の精神に基づいた青少年の健全育成・国旗国歌祝日の意義啓発・憲法改正等に共に歩んで参りたいと存じますので、特段のご協力を頂きますようお願いし、御挨拶とさせて頂きます。

本宗奉賛委員会委員長就任挨拶

馬場 裕彦



員会委員長を拝命い
きまして本宗奉賛委

このたび、高麗文
康庁長よりご推挙い
ただき、理事会にお
きまして本宗奉賛委
員会委員長を拝命い
たしました。誠に浅学非才ではございますが、
いただきました役割を精一杯務めて参りたい
と存じます。

神宮大麻の頒布、奉斎のための活動は、家
庭のまつりを通して神宮と神社、氏子崇敬者
とを結び、敬神崇祖の念を継承する教化活動
の原点であります。

神社本庁では過去「神宮大麻頒布都市並び
に団地対策」、「二十万家庭神宮大麻奉斎運
動」、「指定県制度」、「モデル支部制度」など
の諸施策を実施し、これまでの成果と課題を
踏まえ、平成二十六年度からは「三カ年継続
神宮大麻都市頒布向上計画」を策定、二期六
年にわたり三カ年継続の教化実践目標と連動
する形で頒布施策を推進してきました。しか
しながら、平成二十六年度以降、減体傾向に
歯止めがかからず、過疎化や人口減少の問題
もあつて、頒布活動を取り巻く環境は厳しさ

を増すばかりであります。

第三期では初年度となる令和二年に二十五
年ぶりに神宮大麻初穂料が改訂となりました。
また、令和四年は神宮大麻全国頒布百五十年
の節目の年となることから、より強力な増頒
布活動に努めなければなりません。

そこで、今までの頒布向上計画の成果や課
題を検証し、新たな頒布向上の諸施策を展開
してゆきたいと考えます。

前期教化委員長として行っておりました
『One ポイント UP』運動を発展させ
る形で検討し、活動を行っていきたいと考え
ております。この『One ポイント U
P』運動とは、一年間に一人一体・一社一%
UPの純増を目指す運動です。

今後、地区ごとの分析や実情に応じて氏子
や崇敬者への教化を行い、当該神社への協
力・振興とともに家庭祭祀の実践を呼びかけ
るなど、新たな崇敬者の獲得にも果敢に取り
組んでまいります。

皆様のご理解ご協力を切にお願い申し上げ
ます。

神話カレンダー御協賛のお願い

高橋 陽一

日本神話を家庭の中で目にする機会
を提供し、その大切さを多くの方々に
知って頂くために続けて参りました
「日本の神話」カレンダーも今回で
二十三作目になります。

前期までの「大國主」の物語を引き
継ぐ形で、本作からの主題は「天孫降
臨」です。大國主から天津神への国譲
りが成立し、天孫である瓊瓊杵尊が天
照大御神の神勅を受け、葦原中国を統
治するために降り立つまでの物語です。

瓊瓊杵尊に従う五伴緒神いづのとものおのけや、地上の
案内をする猿田彦にもスポットを当て
て、一歩踏み込んだ内容となっております。
ます。

どうぞ本作に対しましても、変わら
ぬご理解を戴きまして、皆様のご協賛
を賜りますようお願い申し上げます。

仕様B3判縦表紙・本文七枚カラー
問合せは神社庁まで(八月十五日申
込締切)

(教化委員会教化広報部班長)

埼玉県神社氏子総代連合会設立七十周年記念 第四十三回埼玉県神社関係者大会報告

宮本剛義

去る六月二十二日、飯能市民会館にて、埼玉県神社氏子総代連合会設立七十周年記念第四十三回埼玉県神社関係者大会が、新型コロナウイルス感染症拡大から三年ぶりに入間西支部の当番のもと、五百八十四名が参加し開催された。

当日午前には、同じく三年ぶりとなった入間西支部神社氏子総代会定期総会が行われた。神社関係者大会は、午後より室岡孝志入間西支部神社氏子総代会会長の辞に始まり、神宮・皇居遙拝の後、感染対策のため国歌斉唱はCDによる静聴、敬神生活の綱領も林将嗣入間地区神道青年会理事の朗読により執り行われた。

次に、高麗文康庁長の式辞、大野光政県神社氏子総代連合会長の挨拶に続き、鷹司尚武神社本庁総代理・金岡正和本庁理事、小松揮世久神宮大宮司代理・橋本敏輝神宮参事、打田文博神道政治連盟会長、山谷えり子参議院議員、地元選挙区の大家拓衆議院議員、中山高嶺埼玉県神社庁顧問の御列席のもと、ご祝辞を頂戴し大会が進行された。

続いて、神社庁規程表彰・氏子総代連合会恒例表彰が行われ、神職・総代それぞれ三十一名、また七十周年記念表彰として六十三名が永年の功績を讃えられ、萩日吉神社・内田眞也総代が受賞者を代表し謝辞を述べられた。

次に、大会宣言(案)を枝窪邦茂入間西支部長が朗読し、原案通り満場一致のもと決議された。次に、次年度当番の岡部憲夫比企支部長が挨拶し、東秀幸副庁長の先導に合わせ聖寿万歳三唱ののち、閉式の辞を大野隆司県神社氏子総代連合会副会長が述べられ、大会は終了した。
(入間西支部事務局長)



宣言

埼玉県神社氏子総代連合会は、昭和二十七年七月二十三日、戦後初となる第五十九回式年遷宮に向けた遷宮奉賛完納奉告祭を機に結成され、爾来、七十年に亘り、神社庁と共に神社の隆昌と斯界の発展を図ってきた。

本年は、明治五年に明治天皇の思召しにより、国の平安と家庭の安寧、国民の幸福を祈る神宮大麻全国頒布百五十周年に当たる。埼玉県神社庁では、明治天皇の思召しを実現するため本宗奉賛委員会を再編し、改めて神宮大麻頒布活動の展開を図る予定である。これにより神宮大麻奉斎の意義を踏まえ、一軒でも多くの家庭が神宮の御神徳に浴する事ができるよう力を尽くす。

中国武漢市に端を発した新型感染症は、令和元年暮れより広がりを見せ、世界中に蔓延した。正体不明の感染症に情報は錯綜したが、日本社会は国民の自制により秩序を失うことがなかった。今や感染症の猛威は終息に向かおうとしている。依然油断はできないものの、今後、正常化に向かう社会にあって、神社は改めて日本人の精神の拠り所とならなければならない。何よりも感染症蔓延防止のために中止されるに至った神賑行事は、神社と共同体を繋ぎ、氏子崇敬者を繋ぐ最も強力な紐帯であろう。我々はこの事に心を致し、再開に向けた模索を始めるべきである。二年以上に亘る停滞が残した痛手は大きい。それを乗り越えた先にはこれまで以上に強い崇敬心と共同体の結束が生まれることを信じ、我が国の再生に取り組むことを誓う。
右、宣言する。

令和四年六月二十二日

埼玉県神社氏子総代連合会設立七十周年記念
第四十三回 埼玉県神社関係者大会

神社庁役員等の改選

任期満了に伴い役員等の改選がなされ、各々左記の通り新役員・委員が選任された。

神社庁役員

庁長	高麗神社宮司	高麗	文康
副庁長	久伊豆神社宮司	小林	一朗
副庁長	幸宮神社宮司	東	秀幸
理事	氷川神社宮司	山田	禎久
理事	調神社宮司	吉田	正臣
理事	白鬚神社宮司	宮本	孝雄
理事	三輪神社宮司	枝窪	邦茂
理事	日枝神社宮司	岡部	憲夫
理事	秩父神社宮司	蘭田	稔
理事	金鑽神社宮司	金鑽	俊樹
理事	菖蒲神社宮司	中村	邦彦
理事	第六天神社宮司	高梨	佳樹
理事	氷川神社権宮司	東角井真臣	
理事	北向神社宮司	岡本	一雄
理事	久伊豆神社総代	大野	光政
監事	梅宮神社宮司	梅田	久詞
監事	御室社欄宜	中山	高明

本庁評議員

高麗神社宮司	高麗	文康
久伊豆神社宮司	小林	一朗
幸宮神社宮司	東	秀幸
久伊豆神社総代	大野	光政

神社庁協議員会

議長	(北足立)	馬場	直也
副議長	(秩父)	曾根原正宏	
副議長	(大里児玉)	津久井幹雄	
	(北足立)	吉田	正臣

(入間東)

(入間西)

(比企)

(秩父)

(大里児玉)

(さきたま)

馬場	直也
新田	朗
宮本	洋平
吉田	孝年
石山	信昭
吉田	元則
大野	隆司
宮本	孝雄
山田	禎久
榎原	祥光
原	泰明
久保田	一男
枝窪	邦茂
高麗	文康
横田	正司
宮本	剛義
中	義之
室岡	孝志
岡部	憲夫
甲田	豊治
竹井	秀利
根岸	豊
蘭田	稔
中山	高嶺
曾根原正宏	
中山	昌人
新井	直行
大澤	孝
井上	靖
金鑽	俊樹
岡本	一雄
茂木	治男
阿久澤秀昭	
渡邊	俊雄
中山	真樹
宮崎	博之
津久井幹雄	
中村	邦彦

支部

北足立	支部長	吉田	正臣
入間東	支部長	宮本	洋平
入間西	支部長	枝窪	邦茂
比企	支部長	宮本	剛義
秩父	支部長	岡部	憲夫
大里児玉	支部長	甲田	豊治
さきたま	支部長	蘭田	稔
埼玉東	支部長	淺見	知史
	支部長	金鑽	俊樹
	支部長	中山	真樹
	支部長	中村	邦彦
	支部長	渡邊	敏明
	支部長	高梨	佳樹
	支部長	恩田	宏典
県総代会役員	会長	大野	光政
	副会長	大野	隆司
	副会長	津久井幹雄	
	副会長	宗像神社総代	
	理事	堀兼神社総代	
	理事	菅谷神社総代	
	理事	秩父神社総代	
	理事	川越八幡神社総代	
	監事	玉敷神社総代	
		細谷	信雄
		久保田	一男
		井上	靖
		根岸	孝志
		室岡	剛義
		津久井幹雄	
		大野	隆司
		大野	光政
		恩田	宏典
		馬場	裕彦
		鈴木	重臣
		高梨	佳樹
		細谷	信雄
		堀越	圭
		高柳	薫
		相澤	力

(埼玉東)

顧問 高麗神社宮司 高麗 文康
 理事 久伊豆神社宮司 小林 一朗
 理事 幸宮神社宮司 東 秀幸

全国総代会代議員

大野 光政
 大野 隆司
 高麗 文康

神道政治連盟埼玉県本部

本部長 高麗神社宮司 高麗 文康
 副本部長 八幡神社宮司 篠田 宣久
 副本部長 秩父神社権宮司 藪田 建
 副本部長 氷川神社総代 大野 隆司
 幹事長 熊野神社宮司 岡本 行雄
 副幹事長 氷川社宮司 土屋 一彦
 幹事 氷川神社宮司 嶋田土支彦
 幹事 中氷川神社欄宜 朝日 和久
 幹事 寶登山神社権欄宜 金子 恵介
 幹事 三ツ木神社宮司 内ヶ嶋一彦
 網紀委員長 氷川神社宮司 山田 禎久
 網紀委員長 鳥護産泰神社宮司 神島 歩
 監査委員長 彦江神社宮司 鈴木 重臣
 監査委員 鷺神社宮司 澤田 稔行
 監査委員 富多神社宮司 中村 大徳
 青年隊長 氷川神社欄宜 鈴木 智之
 事務局長 神社庁参事 武田 淳

神道政治連盟中央委員

高麗 文康
 篠田 宣久
 岡本 行雄
 武田 淳

教化委員会

委員長(教化広報部長) 東角井真臣
 副委員長(事業部長) 新渡戸常英
 副委員長(研修部長) 神島 歩

事業部嶋田班班長 嶋田土支彦
 同 副班長 千島 浩
 同 班員 大野 亨一
 同 祥太

事業部小林班班長 宮内 崇
 同 副班長 渡邊 昌紀
 同 班員 渡邊 敏明
 同 小高 茂
 同 小林 威朗
 同 石井 哲朗
 同 鈴木雄太郎
 同 星野 倫啓
 同 三芳 文彬
 同 宮田 和裕
 同 吉田うらら
 同 松岡 宏聡
 同 中山 昌人
 同 高野 浩成
 同 伊藤 雅浩
 同 秋田 昌巳
 同 川端 康稔
 同 高橋 篤紀
 同 石山須美江
 同 宮本 修
 同 関山 知彦
 同 吉村 光夫
 同 横田 和也
 同 大島 克夫
 同 木村 壮宏
 同 藤井 由美
 同 高橋 陽一
 同 梅林 正樹
 同 佐藤 悠史
 同 鴨下 拓真
 同 中原 和弥
 同 田島 真希
 同 千葉 康一

事業部中山班班長 嶋田土支彦
 同 副班長 高麗 文康
 同 班員 高麗 文康

研修部宮本班班長 高麗 文康
 同 副班長 高麗 文康
 同 班員 高麗 文康

教化広報部高橋班班長 高麗 文康
 同 副班長 高麗 文康
 同 班員 高麗 文康

本宗奉賛委員会

委員長 久伊豆神社宮司 馬場 裕彦
 常任委員 中山神社宮司 吉田 孝年
 (北足立) 熊野神社宮司 岡本 行雄
 (入間東) 三島神社宮司 横田 正司
 (入間西) 稲荷神社宮司 竹井 秀利
 (比企) 秩父神社権宮司 藪田 建
 (秩父) 秩父神社宮司 福井 千秋
 (大里児玉) 高城神社宮司 内ヶ嶋一彦
 (さきたま) 三ツ木神社宮司 小林 威朗
 (埼玉東) 久伊豆神社欄宜 小林 威朗

庁報室

室長 高麗 文康
 編集長 嶋田土支彦
 副編集長 中山 真樹
 委員 網野 直久
 小林 充
 森田 豊
 小尾 威朗
 赤林 治紀
 倉林 吾礼
 鈴木 敬臣
 高橋 寛司

神社調査資料室

室長 藪田 稔
 調査委員 曾根原正宏
 岡本 一雄
 馬場 直也
 大明 直久
 網野 直久
 宮本 直樹
 高麗 文康
 高柳 圭
 高橋 寛司

庁務日誌抄

5・1	月次祭 於 神社庁 憲法研修会 高麗庁長・武田参事出席	6・13	研修所講師会例会 於 神社庁・WEB会議 神社庁会計監査会 於 神社庁 神政連県本部会計監査会 於 神社庁 神政連県本部役員・委員合同会議 於 神社庁・WEB会議
5・3	高麗庁長・武田参事出席	6・14	神政連国会議員懇談会総会・懇親会 於 Hニユーオータニ 高麗本部長・篠田副本部長・岡本幹事長・武田事務局長出席
5・9	於 浦和ロイヤルバインズホテル 教化広報部会(高橋班) 於 秩父神社 5・12~13 神宮並びに熱田神宮奉告参拝 高麗庁長・小林・東岡副庁長・武田参事出席	6・15	神政連中央委員会 高麗本部長・篠田副本部長・岡本幹事長・武田事務局長出席 神政連本部長・事務局局長会議 高麗本部長・武田事務局局長出席 於 神社本庁 神社本庁事務担当委員会 武田参事出席 於 神社本庁 教化広報部会(高橋班) 正副庁長会・神社庁役員会 於 神社庁
5・16	於 三重県・愛知県 庁報編集会議 於 神社庁・WEB会議 教化委員会「委員総会」 於 神社庁・WEB会議 全国神社総代会代議員会 高麗庁長・大野会長・大野副会長出席 於 神社本庁	6・16	正副庁長会・神社庁役員会 於 神社庁・WEB会議 研修部会(中山班) 於 神社庁 於 清水園 高麗庁長・東副庁長出席 埼玉県神社氏子総代会連合会設立七十周年 第四十三回埼玉県神社関係者大会 五百八十二名参加 於 飯能市市民会館
5・18	於 明治記念館 國學院大學協議員会 高麗庁長出席 於 明治記念館 神社本庁表彰式 表彰者八名 高麗庁長・小林・東岡副庁長・武田参事他出席 5・26~28 神社本庁評議員会・班幣式・神社庁長会他 於 明治記念館 高麗庁長・小林・東岡副庁長・大野会長・武田参事出席 於 神社本庁	6・21	6・21
5・25	5・30	6・22	6・24~25
6・1	6・3	6・27	6・29
6・3	6・7	7・1	7・4
6・7	6・8	7・4~8	7・5
6・9	6・9	7・5	7・5

7・6	事業部会(小林班) 於 神社庁 雅楽講師連絡会 於 神社庁・WEB会議 研修部会(宮本班) 於 神社庁 山谷えり子参議院議員候補街宣車助勢 於 社内各所 神政連幹事・神青会員助勢 於 社内各所 教化広報部会(高橋班) 於 神社庁
7・8	7・12
7・12	任免辞令 5・25 木村富美子 本 東光神社他二社宮司代務者(比企) 6・1 梅林 正樹 本 菅原神社他八社宮司 (大里児玉) 7・1 嶋田土支彦 本 水川神社宮司 (北足立) 嶋田久仁彦 本 水川神社福宜他十三社宮司(北足立)
6・30	転出 6・30 牧野 裕希 本 久伊豆神社権禰宜 (埼玉東) 神奈川県・白旗神社へ転出
免	1・31 眞野目洋記 本 香取神社権禰宜 (埼玉東) 5・24 吉田 和生 本 東光神社他十社宮司 (比企) 5・31 芝田 拓哉 本 稲荷神社禰宜 (大里児玉) 梅林 肇 兼 菅原神社他八社宮司 (大里児玉) 嶋田久仁彦 本 水川神社他十三社宮司 (北足立)
6・30	帰幽 八幡神社宮司 近藤 壽行 (秩父) (七月一日 享年八十歳)

訂正

『埼玉県神社庁七十五年誌』訂正
362頁 下段 お宮と親子の集い実施報告
平成三十年度 埼玉東支部
宮司名 (誤) 松島良夫
(正) 成田 稔

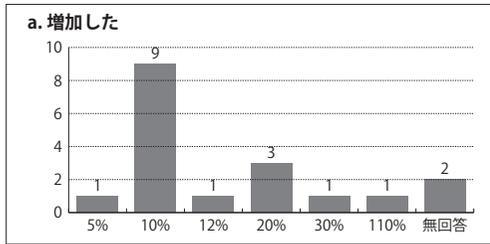
- 特にありません。制限の多いなかでの庁務遂行ありがとうございます。
- 特にありませんが、ただ、なかなか年末年始はお互い自分の神社の準備で忙しく、県内の他の神社の新型コロナウイルスへの対策を知ることが出来ませんので、何か対策を紹介してもらえると嬉しいです。
- コロナ禍で参拝や祈祷に来られない方々への対応策について、神社庁の見解を示して欲しい。(例えば祈祷札やお守りの郵送頒布の是非等。加護を求める思いに応え、社入も落とさない様にするにはどうしたらよいか)
- 幸先詣、12月参拝に足並みを揃えることを促す。
- コロナウイルス対策についての、社頭掲示用品等ありましたら、支部経由にて配布下さい。
- コロナウイルス対策とは別に、現在各地各神社で祭りの場が失われつつある。感染拡大の現状の中で、コロナ禍の終わった後の祭りの在り方や、改めでの祭礼復活を元の形に戻すのが課題かと思う。その対策をお願い致したく存じます。各地の祭礼行事の現状調査と今後の展望を知りたいと考えます。後継者対策に準じ、山間僻地の対策を講じていただくと助かります。
- コロナ関係に限らず「神職専用サイト」の様にお知らせメールを配信してもらおうとありがたい。
- 祭典の縮小、神賑い行事の中止が続き、人の気持ち離れていくことを一番心配している。本務社は参拝者が減らないように工夫を重ね、何とか保っているが、兼務社は多大な影響を受け、護持していくことが困難な状況もある。収束の出口が見えないなか、県神社界としてこれからの神社をサステナブルなものとするための指針と具体的な取り組み、可能な範囲での補助(消毒液スタンドや看板等)を考えていただけると幸いと思っています。
- 情報提供が適宜あり、大変有効に使用させてもらっている。今後も更にきめ細やかにコロナウイルスに対しての各神社の対策をお願いしたい。
- コロナ収束後も引き続きリモート活用(総会、関係者大会、実習等)

- 年間春・秋の祭典だけの無在神社ですので、どうコメントしたら良いのかわからん。どうも大きな神社のみの調査みたいです!細々と何とか維持している神社は大変です。
- 令和2年に配られたマスク着用を促す看板を、再び頂ければ助かります。
- ポスターを境内に掲示できて良かったです。
- 官公庁の注意事項に沿って出来ることから実践していった。参拝者からも特に質問はなかった。
- コロナ感染対策の一つとして、手水舎の使用中止他、鈴の緒の使用中止はいつまでなのか。

以上

a、増加した

- 5%増加1
 - 10%増加9
 - 12%増加1
 - 20%増加3
 - 30%増加1
 - 110%増加1
 - 無回答2
- 合計18

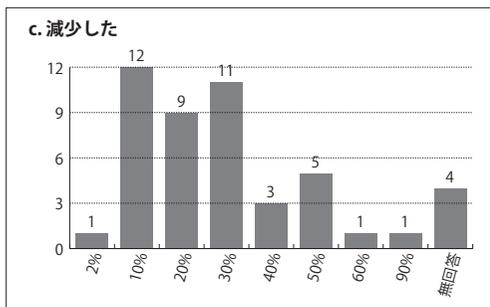


b、変化無し

合計44

c、減少した 47

- 2%減少1
 - 10%減少12
 - 20%減少9
 - 30%減少11
 - 40%減少3
 - 50%減少5
 - 60%減少1
 - 90%減少1
 - 無回答4
- 合計47



d、無回答

合計 2

11、新型コロナウイルス対策について、神社庁に要望することがありますか？ あればその内容をご記入下さい。

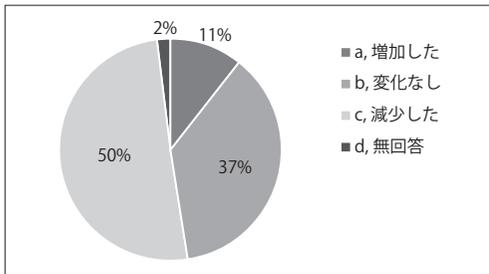
- コロナ対策費の出費が続いておりますので、負担金等について、特別負担金については引き続き特段の配慮を希望する。本庁へもその由お願いしたい。
- 神社の収入減対策として、①神社庁への納付金を減額してほしい。②神宮大麻の授与額を現在の1,000円から1,200～1,300円位に上げて欲しい。
- 将来も神社を守ってゆくには、神職人数に余裕が欲しいので、神職養成講習会の回数は減らさないで欲しい。(コロナが流行したら、在宅の研修も組み入れる等)
- 県内神社の対策について、具体的な事例の提示。
- 年始に入って、神社内クラスターの報道があり、当該神社は参拝停止にしたというが、その方針は正しいのか。宮司の判断と伝え聞いたが、御祭神に参拝することを宮司が停止にするというのはどうなのかと思う。神社庁の見解や、同様の場合はどうすべきか等を伺いたい。
- 新型コロナウイルスに対して、基本的な対策や情報は定着してきている。引き続き、オンラインの充実に期待します。
- 検査キットが欲しい。
- 消毒用機器及び消毒液の情報
- 頒布窓口の対応状況、神符受け渡し、初穂料の受け渡し方法(例えばトレー使用等)
- 参考になる情報提供、各祈願の対応(昇殿数含めて)
- 良くフォローしてくれていると思う。ポスターや対応策の提示があつて良かった。特に12月からの正月用品の頒布は、神社運営上良い方策であった。
- 祭典等の執行状況。他社の情報が知りたい。
- ワクチンの職域接種
- ZoomによるWEB会議はこれからも継続して取り組んで欲しいと思っています。特定の人の参加になりつつあるので、参加者の拡大を図る取り組みをお願いします。

d、無回答

合計 2

9、コロナ禍前に比べ、昨年(令和3年)1年間の社入に影響がありましたか?

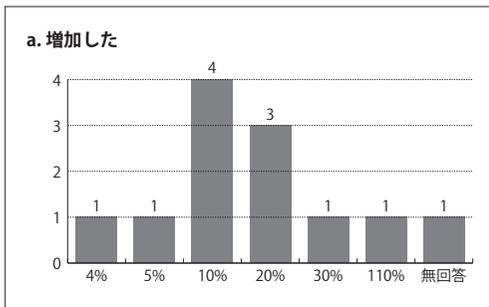
	回答数
増加した	12
変化なし	41
減少した	56
無回答	2
合計	111



a、増加した

- 4%増加1
- 5%増加1
- 10%増加4
- 20%増加3
- 30%増加1
- 110%増加1
- 無回答1

合計12



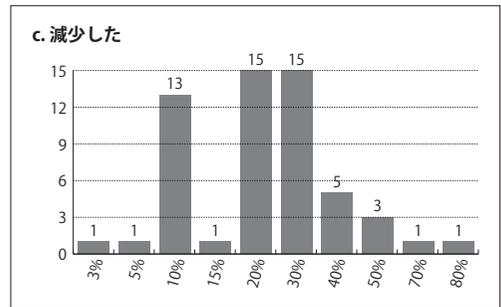
b、変化無し

合計41

c、減少した

- 3%減少1
- 5%減少1
- 10%減少13
- 15%減少1
- 20%減少15
- 30%減少15
- 40%減少5
- 50%減少3
- 70%減少1
- 80%減少1

合計56

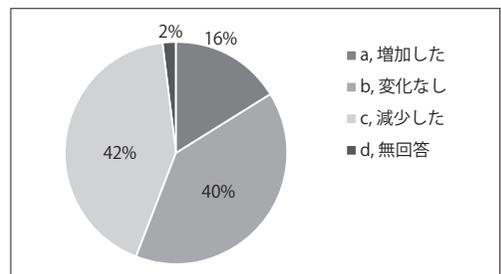


d、無回答

合計 2

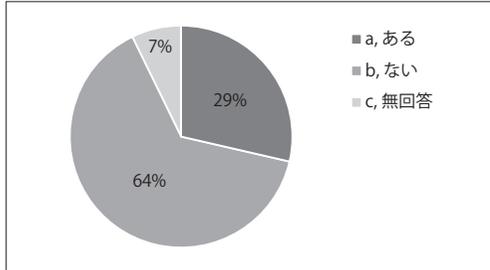
10、コロナ禍前に比べ、昨年(令和3年)1年間の参拝者数に影響がありましたか?

	回答数
増加した	18
変化なし	44
減少した	47
無回答	2
合計	111



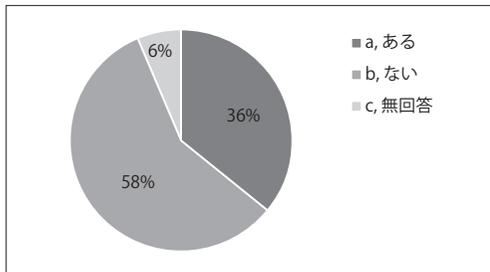
6、助勤神職・巫女の依頼人数に影響はありましたか？

- a、ある 32
- b、ない 71
- c、無回答 8



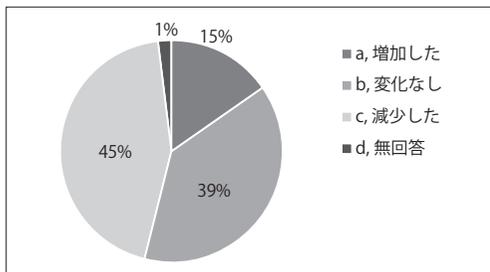
7、他社に助勤に呼ばれる回数に影響はありましたか？

- a、ある 40
- b、ない 64
- c、無回答 7



8、コロナ禍前の同時期(10～1月)に比べ、社入に影響はありましたか？

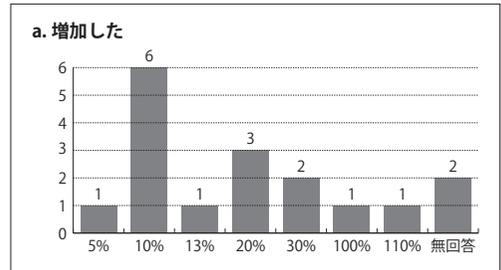
	回答数
増加した	17
変化なし	43
減少した	49
無回答	2
合計	111



a、増加した

- 5%増加 1
- 10%増加 6
- 13%増加 1
- 20%増加 3
- 30%増加 2
- 100%増加 1
- 110%増加 1
- 無回答 2

合計 17



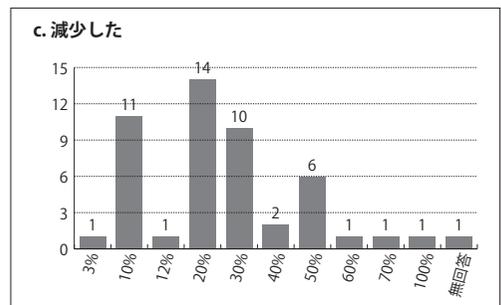
b、変化なし

合計 43

c、減少した

- 3%減少 1
- 10%減少 11
- 12%減少 1
- 20%減少 14
- 30%減少 10
- 40%減少 2
- 50%減少 6
- 60%減少 1
- 70%減少 1
- 100%減少 1
- 無回答 1

合計 49



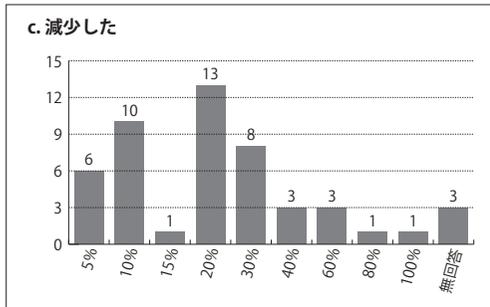
b、変化なし

合計57

c、減少した

- 5%減少6
- 10%減少 10
- 15%減少1
- 20%減少 13
- 30%減少8
- 40%減少3
- 60%減少3
- 80%減少1
- 100%減少1
- 無回答3

合計44

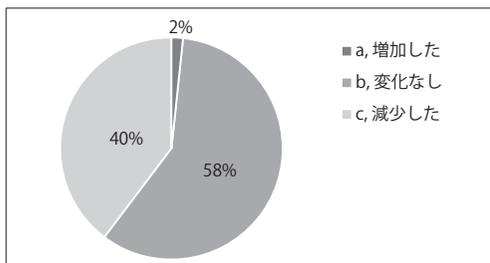


d、無回答

合計 1

5、コロナ禍前の同時期(10～1月)に比べ、外祭数に影響はありましたか?

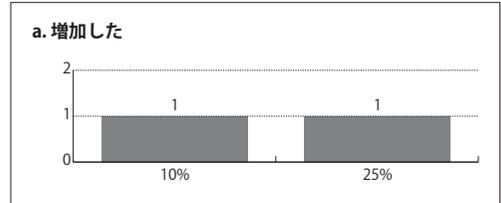
	回答数
増加した	2
変化なし	65
減少した	44
合計	111



a、増加した

- 10%増加1
- 25%増加1

合計 2



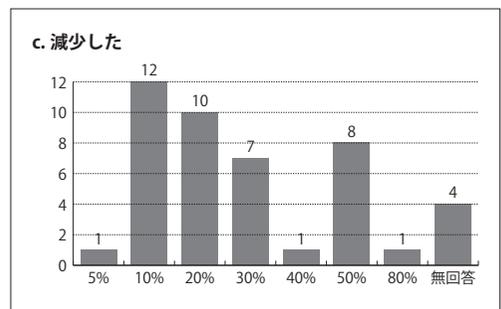
b、変化なし

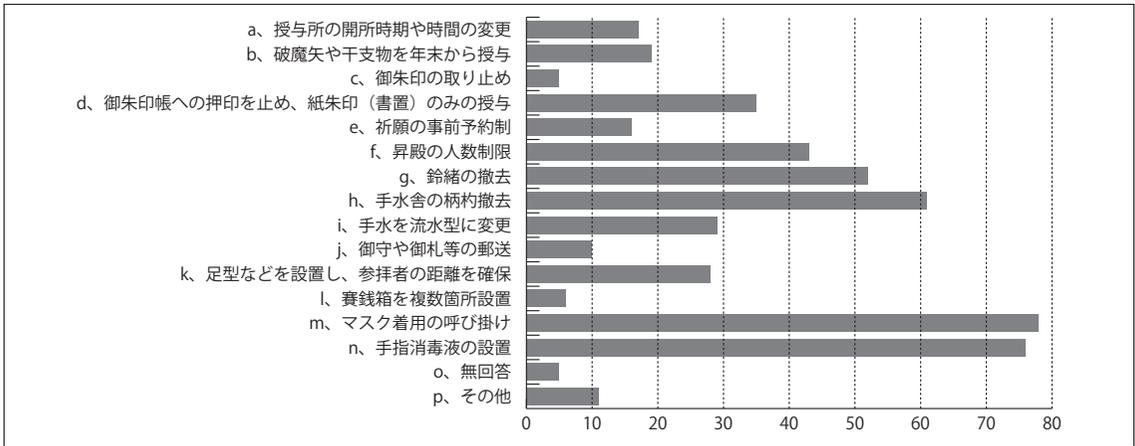
合計65

c、減少した

- 5%減少1
- 10%減少 12
- 20%減少 10
- 30%減少7
- 40%減少1
- 50%減少8
- 80%減少1
- 無回答4

合計44

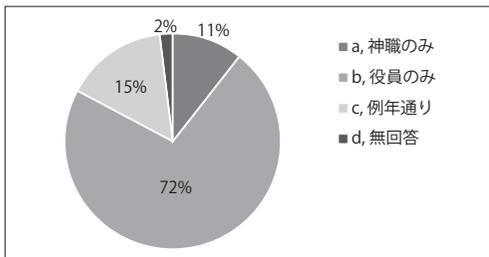




- 鈴緒を戻し、お参り後巫女による消毒
- 参拝者の方が自由に授与品に触らないようにするために、授与品のメニュー表を作り、番号を言ってもらい頒布した
- 換気扇設置
- 立て看板（参拝者様の諸注意）数カ所設置
- 検温（体温計）の設置
- ポスター・看板の設置
- テント授与所を社務所から離れた場所に設置
- 換気の徹底（各窓を5cmずつ開き、換気扇を常時入れておく）
- 照明器具を新設し、明るくした
- ビニール幕の設置
- 参拝者（祈願者）の流れを一方通行にした
- 個人祈願、企業祈願の昇殿者数を限定した
- 祭典は総代・役員のみ
- 市販抗炎症薬、カイロ多数用意。感染時連絡先（当番医番号）の提示

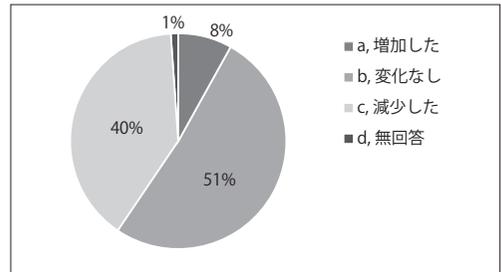
3、祭典（例祭や恒例祭）の参列状況について

	回答数
神職のみ	12
役員のみ	80
例年通り	17
無回答	12
合計	111



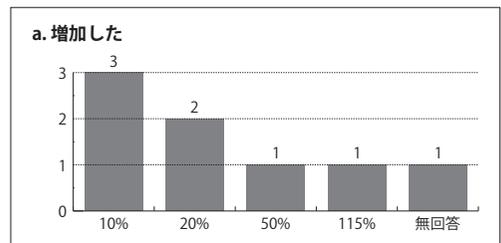
4、コロナ禍前の同時期（10～1月）に比べ、祈願数に影響はありましたか？

	回答数
増加した	9
変化なし	57
減少した	44
無回答	1
合計	111



a、増加した

- 10%増加3
 - 20%増加2
 - 50%増加1
 - 115%増加1
 - 無回答1
- 合計 9

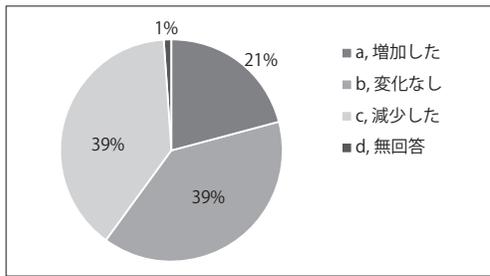


d、無回答

合計 1

1-2、三が日はコロナ禍前と比較して、参拝者数に変化はありますか？

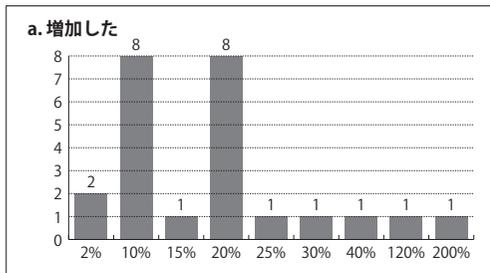
	回答数
増加した	8
変化なし	32
減少した	70
無回答	1
合計	111



a、増加した 24

- 5%増加2
- 10%増加8
- 15%増加1
- 20%増加8
- 25%増加1
- 30%増加1
- 40%増加1
- 120%増加1
- 200%増加1

合計24



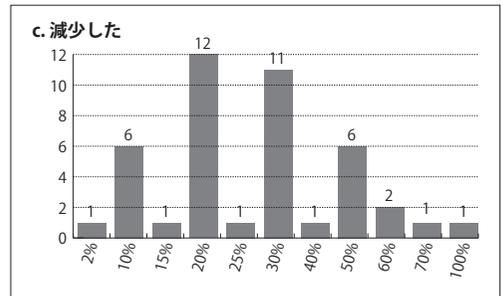
b、変化無し

合計43

c、減少した

- 2%減少1
- 10%減少6
- 15%減少1
- 20%減少12
- 25%減少1
- 30%減少11
- 40%減少1
- 50%減少6
- 60%減少2
- 70%減少1
- 100%減少1

合計43



d、無回答

合計 1

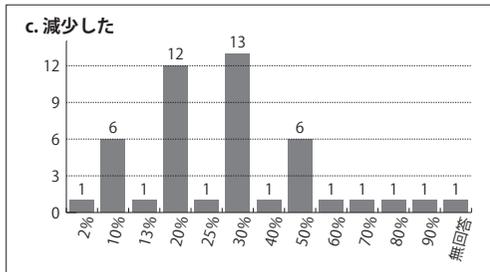
2、年末年始の新型コロナウイルス対応としてどのような対応を行いましたか？（複数回答可）

- a、授与所の開所時期や時間の変更 17
- b、破魔矢や干支物を年末から授与 19
- c、御朱印の取り止め 5
- d、御朱印帳への押印を止め、紙朱印(書置)のみの授与 35
- e、祈願の事前予約制 16
- f、昇殿の人数制限 43
- g、鈴緒の撤去 52
- h、手水舎の柄杓撤去 61
- i、手水を流水型に変更 29
- j、御守や御札等の郵送 10
- k、足型などを設置し、参拝者の距離を確保 28
- l、賽銭箱を複数箇所設置 6
- m、マスク着用の呼び掛け 78
- n、手指消毒液の設置 76
- o、無回答 5
- p、その他 11

c、減少した

- 2%減少1
- 10%減少6
- 13%減少1
- 20%減少 12
- 25%減少1
- 30%減少 13
- 40%減少1
- 50%減少6
- 60%減少1
- 70%減少1
- 80%減少1
- 90%減少1
- 無回答1

合計46

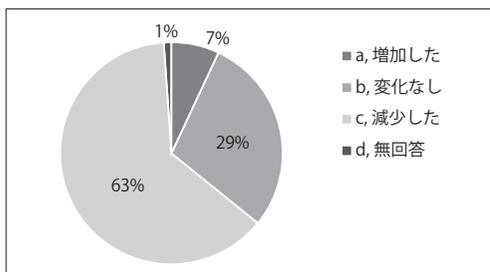


d、無回答

合計 1

1-1、1月1日の夜中はコロナ禍前と比較して、参拝者数に変化はありますか？

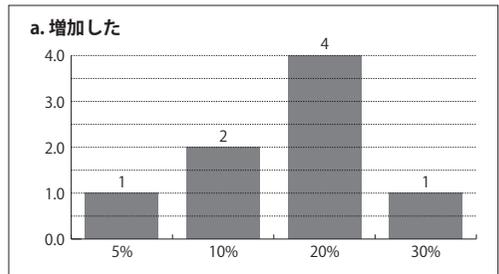
	回答数
増加した	8
変化なし	32
減少した	70
無回答	1
合計	111



a、増加した

- 5%増加1
- 10%増加2
- 20%増加4
- 50%増加1

合計 8



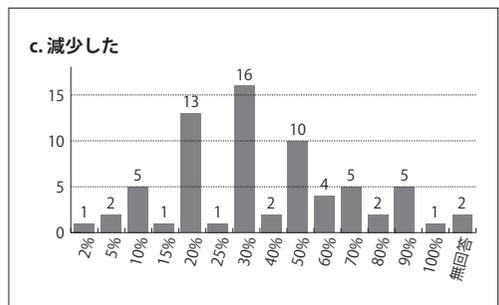
b、変化無し

合計32

c、減少した

- 2%減少1
- 5%減少2
- 10%減少5
- 15%減少1
- 20%減少 13
- 25%減少1
- 30%減少 16
- 40%減少2
- 50%減少 10
- 60%減少4
- 70%減少5
- 80%減少2
- 90%減少5
- 100%減少1
- 無回答2

合計70



第四回 コロナ禍における神社実態調査の集計結果

令和4年1月実施

埼玉県神社庁

管内の宮司262人を対象に年末年始の実態調査をお願いした所、111人の方からご回答を戴きました。多くの方よりご回答戴きました事に感謝申し上げます。

年明け以降、感染状況は一旦落ち着きをみせ、日常生活を取り戻しつつ、春祭りや夏祭りなど規模を縮小してではあるが実施されてきました。しかし7月以降に新型コロナウイルスの感染が急速に再拡大し、連日1日の感染者数が過去最多記録を更新しています。感染性の高いBA.5という変異種が流行の中心となり、ワクチン接種による免疫の減弱や夏休みなどが影響し、更なる感染爆発が懸念されております。

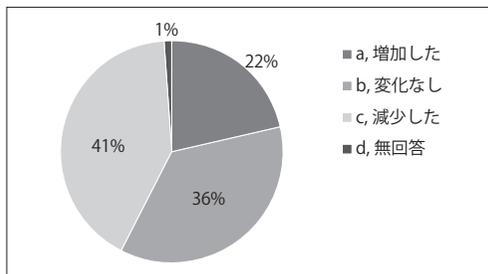
当庁を始めとする三十の都府県神社庁は、新型コロナウイルスの感染対策として「変わらない祈りのために」キャンペーンを実施して参りました。ガイドラインの作成やチラシ・ポスターの作成、神社における換気状況の調査、政府や地方自治体への渉外活動、マスコミ対応など「七五三」や「初詣」など神社に安心してお参りして戴く為に活動を行って参りました。今後も状況に合わせた対応を行って参りたく存じます。

さて、今回の調査結果を見ますと、年末年始の参拝者数は、6割近くの神社で例年と比べて増加や変化なしとなっており、1月1日の夜中など混雑する時を避けてお参りをする傾向がみられます。分散参拝が定着してきているのではないかと考えます。しかしながら、社入は依然厳しい状況にある事が伺えます。今後の神社庁の教化活動を始めとする施策を考える上で重要なデータであり、内容をより精査していきたいと考えております。なお、記述で回答を戴いたものについては、内容が重複しているものなどは一部割愛をさせて戴きました。ご了承願います。

対象：宮司職（本務・兼務）			
支部	依頼数	回答数	回答率（%）
北足立	41	17	41
入間東	24	10	42
入間西	36	21	58
比企	19	9	47
秩父	31	13	42
大里児玉	49	17	35
さきたま	34	14	41
埼玉東	28	10	36
不明			
合計	262	111	43

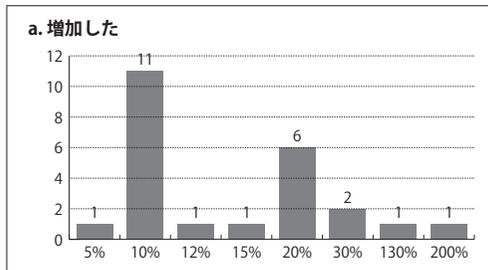
1、年末年始(昨年12月～本年1月)はコロナ禍前と比較して、参拝者に変化はありますか？

	回答数
増加した	24
変化なし	40
減少した	46
無回答	1
合計	111



a. 増加した

- 5%増加1
 - 10%増加 11
 - 12%増加1
 - 15%増加1
 - 20%増加6
 - 30%増加2
 - 130%増加1
 - 200%増加1
- 合計24



b. 変化無し

合計40

中山高嶺前庁長に長老の敬称が贈られる

去る五月二十五日、明治記念館で開催された神社本庁表彰式において、中山高嶺前庁長（三峰神社宮司）が、神社本庁鷹司尚武統理・同田中恆清総長より鳩杖が贈られ、第二条三号の功績状と長老証書に頸飾章が授与されました。

本県において長老の敬称が贈られたのは、河野省三氏、金鑽俊雄氏、東角井光臣氏、藪田武男氏、横田茂氏に続き、六人目となります。



鳩杖



頸飾章